



ある問題



川崎ゆきお

「イメージというのは変わりますなあ」

「印象ですか」

「そうです。物事の印象です」

「当然でしょうねえ」

「分かっているが、改めて考えると、これは妙だねえ」

「まあ、印象は変わりますからねえ」

「ブレないというのも嘘だね」

「そうですか」

「同じものを見ても、同じように見えないことが多々ある」

「違ったものに？」

「そこまで違っちゃいないが、受け止め方が違うんだなあ」

「それで普通でしょ」

「そうだったかなあ」

「普通のことが異様に見えたりもしますよ」

「そうだね。状況が変われば違ってくるか」

「だから、ブレたり、ズレたりするのは当然ですよ。それ以上に正反対なものになっていたりしますよ」

「じゃ、ブレないのは何かな」

「そのものはブレていないで、見る側がブラしているのかもしれませんが」

「まあ、長く変わらないものもあるねえ。たとえばお日さんと月はずっとある」

「風もそうですよ。山も」

「山は多少は変わるでしょ。四季により」

「ああ、そうですねえ。それで、何でしょうか」

「何が」

「変わらないものを探しているのですか」

「そこまで追い込みませんよ。軽く印象が違うことがありましてねえ。これは私の見方が変わったのか、相手が変わったのかはよく分からん」

「人に関しての話ですか」

「それだけとは限らん、物事についてもだ」

「だから、世も人も、変化しているのでしょうかねえ」

「それもよく分かっているんだがねえ」

「何か悪いことでも起きましたか」

「どうして」

「そういうお話しをされるので」

「そうかい」

「何かお手伝い出来ることがあれば、協力しますよ」

「いい人だねえ、あなた。それは儀礼かね」

「いえ、私で出来ることなら」

「それはないと思うよ」

「そうなんですか」

「手伝ってもらえるのなら、最初に言いますよ」

「ああ、なるほど」

「因果応報かもしれん」

「それはまた、お古い」

「こういう言葉は変わっていないかもしれないねえ。まだ使える」

「はい」

「まあ、身から出た錆だ。ああ、これも使えるなあ」

「感心している場合ですか」

「まあ、どうにもならん問題だから、嵐が去るまで待つしかない。ああ、これも使えるなあ」

「あ、はい」

了